

国語(現代文)

東京大学 (前期・文科) 1/4

<総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

他者との応答のうちに生成する自分にとって「自分らしさ」とは何かを論じた文章。本文の抽象度が高いうえに、他者との応答の中で生成する自己というイメージが受験生にはつかみにくく、難しく感じられたことであろう。

<本文分析>

大問番号	第一問
出典 (作者)	池上哲司『傍らにあること—老いと介護の倫理学』(筑摩書房 2014年刊)
頻出度合 ・的中等	入試でときおり出題される著者である。 2011年度第一回東大即応オープンで、同書のp.165~p.173の文章が出題された。
分量 前年比較	分量 <b>減少</b> ・変化なし・増加 約2700字。昨年よりも500字減。
難易 前年比較	難易 (易化・変化なし・ <b>難化</b> )

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
一	自己論	(一)	記述	標準	「このような見方」の「出発点」の内容を押さえたうえで、そこにどんな誤りがあるかを指摘する。
		(二)	記述	難	「この運動」とはどういう運動かをはっきりさせるとともに、「完全に」という言い方にも注意をほらう。
		(三)	記述	難	自分らしさは他者によって認められるが、決定はされないという文脈を押さえて説明する。
		(四)	記述	難	傍線部の二つ前の段落にある、自分なり他人なりの抱くイメージからどれだけ自由になれるか、という内容を取り込んで説明しなければならない点が難しい。
		(五)	記述	難	傍線部が、筆者の考える「自分らしさ」とは何かを述べている部分であることを押さえた上で説明する。
		(六)	記述	標準	三問というのはいままでで一番少ない。

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

様々なジャンルの評論を読み、そのテーマに関する理解を深めるとともに、文章の論理構造をしっかりと把握できるようにしたい。  
書くべき要素を的確に捉え、簡潔明解にまとめる練習をしておこう。

# 国語 (古文)

## 東京大学 (前期・文科) 2/4

### <総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

オーソドックスな出題であった。

### <本文分析>

大問番号	第二問
出典 (作者)	『夜の寝覚』
頻出度合 ・的中等	時折見られる出典。
分量 前年比較	分量 <b>減少</b> ・変化なし・増加 約770字 前年より約220字減。
難易 前年比較	難易 (易化・ <b>変化なし</b> ・難化)

### <大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
第二問 (文科)	物語	(一)			
		ア	記述	易	現代語訳。
		イ	記述	易	現代語訳。
		カ	記述	易	現代語訳。
		(二)	記述	標準	現代語訳 (必要な言葉を補って訳す)。
第二問 (理科)	物語	(三)	記述	やや易	内容説明。
		(四)	記述	やや難	理由説明。
		(五)	記述	やや難	内容説明。
		(一)			
		ア	記述	易	現代語訳。
イ	記述	易	現代語訳。		
オ	記述	易	現代語訳。		
(二)	記述	やや易	内容説明。		
(三)	記述	やや難	理由説明。		

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

### <学習対策>

古文を読解する上で必要な知識項目を習得するとともに、文章を一語一語丁寧に読解する訓練をしておくこと。正確な現代語訳をするために、単語・文法の学習を厳密に行っておくことが大切である。また、解答を簡潔にまとめる練習も必要。

# 国語 (漢文)

# 東京大学 (前期・文科) 3/4

## <総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

例年通り文理共通問題であり、昨年同様に散文からの出題であった。設問数も例年と変わらず文科5題、理科4題であったが、理科では第二段落59字分が省略されていた。また、ここ数年出題されていなかった空欄補充の設問が出題された。ただし空欄補充の問題は主語等の指摘ではなく、文法の理解を問う問題であった。また、昨年度同様、設問に関わる部分で返り点、送り仮名の省略が一箇所あった。例年通り、答案を作成する際に内容を適切にまとめるのは容易ではない。

## <本文分析>

大問番号	第三問
出典 (作者)	『閑微草堂筆記』
頻出度合 ・的中等	『閑微草堂筆記』からはしばしば出題されるが、当該箇所は稀。
分量 前年比較	分量 <b>減少</b> ・変化なし・増加 文科は203字。昨年は240字 (昨年より37字減)。 理科は144字。昨年は240字 (昨年より96字減)。
難易 前年比較	難易 (易化)・ <b>変化なし</b> ・難化

## <大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
第三問 (文科)	志怪	(一)	記述	標準	内容説明。本文冒頭の内容に注意する。 空欄補充。否定の連用に注意。 指示内容指摘。傍線部直後の「二物」に注意。 現代語訳。「誰～」「何～耶」、及び「爾 (しかセン)」に注意する。 現代語訳。第二段落の内容から「風流」を的確に把握する。
		(二)	記述	標準	
		(三)	記述	標準	
		(四)	記述	標準	
		(五)	記述	標準	
第三問 (理科)	志怪	(一)	記述	標準	内容説明。本文冒頭の内容に注意する。 空欄補充。否定の連用に注意。 指示内容指摘。傍線部直後の「二物」に注意。 現代語訳。「誰～」「何～耶」、及び「爾 (しかセン)」に注意する。
		(二)	記述	標準	
		(三)	記述	標準	
		(四)	記述	標準	

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

本格的な漢文の読解力が要求されているので、基本句形や重要単語の十分な学習と問題演習が必要である。加えて漢文の背景となる思想や歴史などの知識も学んでおきたい。  
細心の注意を払って文脈を読み取り、簡潔で過不足のない答案を作成する訓練を怠らないこと。  
過去、漢詩もたびたび出題されているので、文科、理科ともに漢詩の対策も必須である。

国語 (現代文)

東京大学 (前期・文科) 4/4

<総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

作家であり写真家でもある筆者のエッセイ。第四問は芸術家や作家による随筆からの出題が多いが、そうした意味で今年は、例年の傾向どおりの出題だといえる。本文・設問ともに素直であり、全体に昨年よりは易化したといえるだろう。

<本文分析>

大問番号	第四問 (文科のみ)
出典 (作者)	藤原新也「ある風来猫の短い生涯について」(佐々木倫子『動物のお医者さん』白泉社文庫版第6巻の「解説」より)。
頻出度合・的中等	入試でしばしば見られる筆者の文章である。
分量 前年比較	分量 (減少・変化なし・増加) 約3190字。昨年よりも約210字増加。
難易 前年比較	難易 (易化・変化なし・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
第四問	随筆	(一)	記述	標準	傍線部内容説明。自立し自然と一体化する子猫と、そこにある野生の掟、そして傍線部の「悠久の安堵感のようなもの」を、過不足なく説明する。
		(二)	記述	標準	傍線部内容説明。基本的には傍線部の言い換えだが、傍線部にある〈本来すべきではないことをしてしまった〉というニュアンスを出したい。
		(三)	記述	標準	傍線部内容説明。傍線部自体は単に「ボランティア精神」のためではなかったという意味だが、ではなぜ病猫の面倒を見たのかという理由(後ろから3つ目の段落)まできちんと説明すること。
		(四)	記述	やや難	傍線部内容説明。解答の方向性が確定しにくい。後ろから3つ目の段落と、「欠陥のある動物」が「人の気持ちを拘束」という内容(傍線部ウの3行前)を踏まえて答えを作りたい。

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

文学者・芸術家のエッセイを中心に様々なタイプの文章にふれ、高度な読解力を身につけること。とらえどころのない設問も多いため、解答の方向を正確に見定め、答えるべきことをわかりやすく簡潔な表現で自在に説明しうる表現力を養う必要がある。